



デンタル 小町  
が通る



八巻歯科医院院長(神奈川県)

山口里恵 ⑪

皆さん、覚えてますか？突然地中のナマズが大移動するような地鳴りがし、地面が大きくねじ曲がり、何が起こったのかすぐには理解できなかつた東日本大震災が起こつた日のことを。7月に身元確認作業で宮城に行き、新幹線で東京に戻つた日、す

ごい数の人たちがそれぞれの目的地へ向かつて平然と歩いていく姿を見た時、ここで今、大規模な災害が起きた時、想像した時の恐怖は忘れられないはずだつた。

月日はたち、一人暮らしで目覚まし時計が苦手な私は、体内時計を頼りに目覚めた瞬間に時

黒恵という初老の女から歯科医師に気持ちを変えていく。朝のミーティングをスタッフと行い、診療が始まる。こんな決まりで毎日が過ぎていく。

事なき日も主張で、人一倍自信がない私は、何事もなく無事一日が終わると、最近はおいしい

間を確認する。布団から手だけを伸ばし、暖房のスイッチを入れる。ぬくぬくとしながら今日一日何をしなければいけないのか脳みそと戦いながら、別れがたい恋人のような暖かいベッドから抜け出す。化粧、着替えをし、自分のお弁当を作り、朝食をとる。車のエンジンをかけ、山口

お酒を飲むことしか考えなくなり、女子大生になつたと喜んでいたのも、ずっと昔のように思えていた。

しかし、そんな自分の中に変化が起つた。「ドクターX」というフリーの女医が主人公のドラマを見たのがきっかけだつた。彼女はどんな手術も失敗しないのが売りで、成功報酬として大金を受け取る。それはそれは私とは比べ物にならないかつてよきなのだが、考えてみれば、私だって医師として失敗は許されない。ドラマのように劇的でなくとも、見過ごしてはいけないものがあると気づかされたのだ。あの震災から3年もたつて

いないのに私は平和な毎日をマンネリな日々と勘違いして、人生を狂わされてしまった人たちがいるのを忘れていた気がする。一時も同じ瞬間がないことを大切に、平和な毎日に感謝して生きていかなければならない。心身ともにかつこいい里恵先生を目指して。

山口里恵先生の執筆は今回で終わりです。